

雪に強い道づくり事業費

事業評価個票（事業実施：平成30年度）				部局名	県土整備部			
短期アクションプラン	テーマ	テーマ7 地域活力と多様な交流を生み出し災害に強い県土基盤の形成						
	施策	施策4 県民の生活を支える社会資本の整備・機能強化						
	目的	防災・減災への対応や地域交通ネットワークの形成など、社会基盤を整備・充実するとともに、効果的・効率的に維持管理・運用し、将来にわたり暮らしを守り支える機能を確保する。						
	目標指標（R2）	-						
	策定時の実績	-	現状	-	主要事業 地域交通ネットワークの充実			
事業名	雪に強い道づくり事業費	担当課・担当	道路保全課 道路メンテナンス・市町村道担当					
事業開始年度	平成18年度	事業終了(予定)年度	未設定					
事業の目的 (目指す姿を3行程度で簡潔に)	安全で安心な冬期交通の確保に資する雪に強いみちを整備する。							
事業概要 (5行程度で簡潔に)	1 雪崩対策(雪崩発生予防策など) 2 吹雪対策(防雪柵など) 3 除雪・凍結対策(流雪溝、路面消融雪施設、堆雪幅確保など)							
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託・請負 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> 交付 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他 上記実施方法とする理由：主に建設工事等により事業実施のため							
予算額・決算額 (単位:千円)	費目(予算見積書のグループ名)	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度		
	防災・安全交付金(雪寒)	419,794	185,227					
	地方道路等整備事業費(雪寒)	726,810	555,696					
	地方道路等整備事業費(雪寒)(受託)	40,000	55,350					
	恒常的単独道路整備事業費(雪寒)	13,136	25,630					
	雪寒施設整備費(一般財源)	19,659	6,060					
	雪に強い道づくり事業事務費等	83,977	154,911					
	防災・安全交付金(雪寒・国補正)		1,653,000					
	【強靱】防災・安全交付金(雪寒)							
計	1,303,376	2,635,874	0	0	0			
財源内訳 (単位:千円)	国庫支出金	282,464	1,246,317					
	繰入金							
	その他特定財源	910,317	1,319,059					
	一般財源	110,595	70,498					
	計	1,303,376	2,635,874	0	0	0		
活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標		単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	防雪柵の設置延長(累計)	活動実績		226.5	229.2			
		当初見込み	Km	226.5	227.0	227.5	228.0	-
成果指標及び成果実績 (アウトカム)	成果指標 (所管部局の分析)		単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	地域を結ぶ道路の落石や雪崩・地吹雪危険箇所の対策進捗率	成果実績	%	50.2	51.2			
		目標値	%	52	55	58	60	-
		達成度	%	96.5	93.1			
関連事業								

事業目標の考え方(事業目標設定時)

県内では、地吹雪による吹き溜まりや視程障害の発生により、冬期間の通行に障害が発生する恐れのある要対策箇所が、庄内地方を中心に約74km存在するが、このうち、「障害発生頻度」「交通量」「通学路」「緊急輸送道路」などを指標として優先順位を設定し対策を進めることとしている。また、老朽化した施設(吹き溜り柵)についても更新が必要であり、これらを含めて設置延長として、年間500m程度を設置する計画である。

事業所管部局による評価・検証

	項目	評価	評価に関する説明
事業目標の妥当性・達成度	事業の目的は県民や社会のニーズを的確に反映しているか。	A	平成30年度末の達成度は、概ね目標水準を達成しているところであり、今後も目標が達成されるように対策を進める。
	明確な政策目的(成果目標)の達成手段として位置付けられ、優先度の高い事業となっているか。	A	
	目標水準は妥当か。	B	
	期待する成果が得られたか。	A	
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	A	
事業内容の妥当性	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	A	平成30年度末の達成度は、概ね目標水準を達成している。事業は、競争入札による請負工事で実施していることから、支出相手の選定は妥当と考える。事業の実施にあたっては、障害発生頻度や交通量等を指標として優先順位付けを行っているほか、対策工法の経済比較を行いコスト縮減に努めている。
	支出先の選定は妥当か。	A	
	受益者との負担関係は妥当であるか。	A	
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	A	
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。	A	
類似の事業がある場合、他部局等と適切な役割分担を行っているか。	A		
の役割 妥当性 分担	市町村、民間等に委ねることができない事業なのか。	A	道路管理者である県が事業を実施している。
今 改 善 点 等 課 題	事業の達成には十分な予算確保が必要であり、国の「防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策」等を活用し、事業に取り組んでいく。		

- ・事業所管部局による評価にあたっては、以下の4つの選択肢から、1つを選ぶこと。
- A: 目標を上回って達成する見込み。期待通りの成果(100%以上)。妥当。
- B: 目標を概ね達成する見込み。概ね期待通りの成果(80~99%)。概ね妥当。
- C: 改善の余地あり。期待した成果を下回っている(79%以下)。
- ー: 該当しない